



CLI 概要

- 管理対象オブジェクト (1 ページ)
- コマンドモード (1 ページ)
- オブジェクト コマンド (4 ページ)
- コマンドの実行 (5 ページ)
- コマンド履歴 (5 ページ)
- 保留中のコマンドのコミット、破棄、表示 (5 ページ)
- CLI のインライン ヘルプ (6 ページ)
- CLI セッション制限 (6 ページ)

管理対象オブジェクト

Firepower eXtensible Operating System (FXOS) は管理対象オブジェクトモデルを使用します。これらのオブジェクトは、管理可能な物理エンティティまたは論理エンティティを抽象的に表現したものです。たとえば、シャーシ、セキュリティモジュール、ネットワークモジュール、ポート、プロセッサは、管理対象オブジェクトとして表現される物理エンティティです。また、ユーザロールやプラットフォームポリシーは、管理対象オブジェクトとして表現される論理エンティティです。

管理対象オブジェクトには関連付けられている設定可能なプロパティが複数存在する場合があります。

コマンドモード

CLI のコマンドモードは階層構造になっており、EXEC モードが階層の最上位となります。高いレベルのモードは、低いレベルのモードに分岐します。高いレベルのモードから1つ低いレベルのモードに移動するには、**create**、**enter**、および**scope** コマンドを使用します。また、モード階層で1つ高いレベルに移動するには、**up** コマンドを使用します。また、モード階層の最上位に移動するには **top** コマンドも使用できます。



- (注) コマンドモードの大半は管理対象オブジェクトに関連付けられているため、あるオブジェクトと関連付けられているモードにアクセスできるようにするには、まず、そのオブジェクトを作成する必要があります。アクセスするモードに対する管理対象オブジェクトを作成するには、**create** および **enter** コマンドを使用します。**scope** コマンドは管理対象オブジェクトを作成するものではありません。すでに管理対象オブジェクトが存在するモードにアクセスするだけです。

各モードには、そのモードで入力できるコマンドのセットが含まれています。各モードで使用できるほとんどのコマンドは、関連付けられた管理対象オブジェクトに関係しています。

各モードの CLI プロンプトには、モード階層における現在のモードまでのフルパスが表示されます。これにより、コマンドモード階層での現在位置がわかりやすくなります。また、階層内を移動する必要がある場合には、非常に便利な機能です。

次の表に、主要なコマンドモード、各モードへのアクセスに使用するコマンド、および各モードに関連付けられている CLI プロンプトを示します。

表 1: 主要なコマンドモードとプロンプト

モード名	アクセスに使用するコマンド	モードプロンプト
EXEC	任意のモードから top コマンド	#
アダプタ	EXEC モードから scope adapter コマンド	/adapter #
ケーブル接続	EXEC モードから scope cabling コマンド	/cabling #
シャーシ	EXEC モードから scope chassis コマンド	/chassis #
イーサネット サーバドメイン	EXEC モードで scope eth-server コマンド (このコマンドとそのすべてのサブコマンドは現在サポートされていません)	/eth-server #
Ethernet uplink	EXEC モードから scope eth-uplink コマンド	/eth-uplink #
ファブリック インターコネクタ	EXEC モードから scope fabric-interconnect コマンド	/fabric-interconnect #
ファームウェア	EXEC モードから scope firmware コマンド	/firmware #

モード名	アクセスに使用するコマンド	モードプロンプト
Host Ethernet interface	EXEC モードから scope host-eth-if コマンド (注) このコマンドとそのすべてのサブコマンドは、このレベルではサポートされません。ホストイーサネットインターフェイス コマンドは /adapter # モードで使用できます。	/host-eth-if #
ライセンス	EXEC モードから scope license コマンド	/license #
モニタリング	EXEC モードから scope monitoring コマンド	/monitoring #
マニュアルの構成	EXEC モードから scope org コマンド	/org #
パケット取り込み	EXEC モードで scope packet-capture コマンド	/packet-capture #
セキュリティ	EXEC モードから scope security コマンド	/security #
サーバ	EXEC モードから scope server コマンド	/server #
サービス プロファイル	EXEC モードから scope service-profile コマンド (注) サービス プロファイルを変更したり、構成したりしないでください。つまり、 create 、 set 、または delete サブコマンドセットを使用しないでください。	/service-profile #
SSA	EXEC モードから scope ssa コマンド	/ssa #
システム	EXEC モードから scope system コマンド	/system #

モード名	アクセスに使用するコマンド	モード プロンプト
仮想 HBA	EXEC モードから scope vhma コマンド (注) 現在、このコマンドとそのすべてのサブコマンドはサポートされていません。	/vhba #
仮想 NIC	EXEC モードから scope vnic コマンド	/vnic #

オブジェクトコマンド

オブジェクト管理用に 4 つの一般的なコマンドがあります。

- **create object**
- **delete object**
- **enter object**
- **scope object**

scope コマンドは、永続的オブジェクトでもユーザインスタンス化オブジェクトでも、すべての管理対象オブジェクトで使用できます。その他のコマンドを使用して、ユーザインスタンス化オブジェクトを作成および管理できます。すべての **create object** コマンドには、それぞれに対応する **delete object** および **enter object** コマンドが存在します。

ユーザインスタンス化オブジェクトの管理では、次の表に説明するように、これらのコマンドの動作はオブジェクトが存在するかどうかによって異なります。

表 2: オブジェクトが存在しない場合のコマンドの動作

コマンド	動作
create object	オブジェクトが作成され、該当する場合、そのコンフィギュレーション モードが開始されます。
delete object	エラー メッセージが生成されます。
enter object	オブジェクトが作成され、該当する場合、そのコンフィギュレーション モードが開始されます。
scope object	エラー メッセージが生成されます。

表 3: オブジェクトが存在する場合のコマンドの動作

コマンド	動作
create object	エラー メッセージが生成されます。

コマンド	動作
<code>delete object</code>	オブジェクトが削除されます。
<code>enter object</code>	該当する場合、オブジェクトのコンフィギュレーション モードが開始されます。
<code>scope object</code>	オブジェクトのコンフィギュレーション モードが開始されま す。

コマンドの実行

任意のモードで **Tab** キーを使用することで、コマンド入力を完了できます。コマンド名の一部を入力して **Tab** キーを押すと、コマンド全体が表示されるか、または別のキーワードや引数値を入力する必要がある場所まで表示されます。

コマンド履歴

CLI では、現在のセッションで使用したすべてのコマンドが保存されます。上矢印キーまたは下矢印キーを使用すると、これまでに使用したコマンドを1つずつ表示できます。上矢印キーを押すと履歴内の直前のコマンドが表示され、下矢印キーを押すと履歴内の次のコマンドが表示されます。履歴の最後に到達すると、下矢印キーを押しても次のコマンドが表示されなくなります。

履歴を閲覧して適切なコマンドを再び呼び出し、**Enter** キーを押すことで、履歴内のコマンドを再入力できます。このコマンドは手動で入力したように表示されます。また、コマンドを再度呼び出した後、**Enter** を押す前にコマンドを変更することもできます。

保留中のコマンドのコミット、破棄、表示

CLI でコンフィギュレーション コマンドを入力する場合、**commit-buffer** コマンドを入力するまで、そのコマンドは適用されません。コミットされるまで、コンフィギュレーション コマンドは保留状態となり、**discard-buffer** コマンドを入力して廃棄できます。

複数のコマンドモードで保留中の変更を積み重ね、**commit-buffer** コマンド1つでまとめて適用できます。任意のコマンドモードで **show configuration pending** コマンドを入力して、保留中のコマンドを表示できます。



(注) 保留中のすべてのコマンドの有効性をチェックします。ただし、キュー登録済みコマンドがコミット中に失敗した場合、残りのコマンドにも適用されます。失敗したコマンドはエラーメッセージで報告されます。

コマンドが保留中の場合、コマンドプロンプトの前にアスタリスク (*) が表示されます。アスタリスクは、**commit-buffer** コマンドを入力すると消去されます。

次に、プロンプトがコマンドエントリのプロセス中に変わる例を示します。

```
Firepower# scope system
Firepower /system # scope services
Firepower /system/services # create ntp-server 192.168.200.101
Firepower /system/services* # show configuration pending
  scope services
+   create ntp-server 192.168.200.101
  exit
Firepower /system/services* # commit-buffer
Firepower /system/services #
```

CLI のインラインヘルプ

? 文字を入力すれば、いつでもコマンド構文の現在の状態で使用可能なオプションを表示できます。

プロンプトに何も入力せずに ? を入力すると、現在のモードで使用できるコマンドがすべて表示されます。コマンドの一部を入力して ? を入力すると、その時点のコマンド構文内の位置でキーワードと引数がすべて表示されます。

CLI セッション制限

FXOS は、同時にアクティブにできる CLI セッションの数を合計で 32 セッションに制限します。この値は設定可能です。